

第 11 回アンケート結果 (抜粋)

1. 一般講演 1 : 「造船特殊技能研修用教材の開発 ー配管艤装の技能伝承ー」

1. 教材は素晴らしいものと思いましたが、実際に民間企業がこれを活用して効果を上げるという部分までコントロールできるのかが興味ありました。

A1 : 依頼があれば、座学講師を担当します。また、座学講師及び実技講師の研修も行います。

2. 造船製造現場の大変さが認識できました。今後、教材の品質向上・実用化を期待します。

A2 : ありがとうございます。今後作成する教材も含めて、宣伝を続ける所存です。

3. 映像を用いた教材は良いと思います。実際に導入してみて、どの程度の効果が得られたのか、情報あればお願いします。配管のほかにも応用がきくので、今後も期待できそうですね。

A3 : 技能は動きですので、映像が適していると思います。教材の効果を定量化することは困難です。何かよい方法があれば、ご教授いただければと存じます。

4. ソフトウェア開発でも同様な課題があり、非常に興味深く聞かせていただきました。

A4 : ありがとうございます。

5. 3D CAD から三次元図に展開して、プレハブを作る工法での技能伝承は新たなテーマがあると思われる。

A5 : 3D の図面はイメージしやすくなるので、その技能に対し入りやすくなると思います。一方、設計者に係わることですが、3次元 CAD での課題は、ユーザーフレンドリーであることが重要だと考えます。生産図面に関しては、2D と比較して 3D は入力データが大幅に増大するので、設計者が「CAD オペレーター」にならないように注意が必要だと考えております。

6. 「習得」という言葉の定義はなんでしょうか？チェック項目とかがあるのでしょうか？あればチェック項目はどう作るのでしょうか？

A6 : チェック項目はあります。①座学の知識テスト、②一品図の作成テスト、③今回紹介した実技に対しては、60のチェック項目があります。チェック項目は、1動作、1確認事項を1項目としております。また、作業性は技能自体の向上だけではなく、服装、段取り、片付けも重要です。特に段取りが作業性をほとんど決めていると考えています。

(研究会においては、チェック項目があるのは実技のみであると回答致しましたが、私の勘違いでした。この場をお借りして訂正させていただきます。)

7. 「基本」が大切であることがよく分かりました。しかし、若手作業者が「基本」を習得していない原因には、どのようなものがあるのでしょうか？

A7：幼少期において、実際にメカをいじる（メカを見たり、集めたりするのではなく）
ことに対する興味・経験が減っていることが原因だと思います。